

2021 年度

年次報告書

一般財団法人日本青年館

I. 公益活動

1. 青年活動振興事業

1) 第 69 回全国青年大会

全国青年大会は、講和条約発効を記念して 1952（昭和 27）年に第 1 回大会が開催され、以来、勤労青年のスポーツ、文化活動の発表と技能向上の場として、全国の青年団が中心となって毎年東京で開催しています。この大会は、一部の種目を除き国民体育大会や国際競技会などに出場した経験のある選手には参加資格がなく、地域で地道にスポーツや文化活動に携わっている青年が参加する大会です。地域のスポーツ、文化活動の裾野を広げ、より多くの青年たちに活躍の場を提供するとともに、全国から集まった青年たちの交流と友好を深めることにも重点を置いて、平和で文化的な住みよい地域づくりを目的にこれまで事業を実施してきました。

第 69 回全国青年大会は新型コロナウイルス感染症拡大のため、対面を必須とする体育部門等の種目開催を見送り、「芸能文化の部」の一部の種目（合唱、郷土芸能、写真展、生活文化展、のどじまん、舞台発表、意見発表、合計 7 種目）のみ、予め収録した動画や生配信によるオンラインでの開催とし、16 道県 186 名の参加をいただきました。オンラインの特性を活かし、各地域からの観覧者増加に取り組み、大会を視聴した端末は 400 台を超え、延べ観覧者数は 1,000 名ほどとなりました。

今回は開会式もオンラインで実施し、瑤子女王殿下をはじめ、内閣総理大臣や文部科学大臣からメッセージを頂戴し読み上げました。また、大会期間中は日本青年館 1 階展示ギャラリーに写真展や生活文化展の作品を展示するとともに、青年館利用者も閲覧できるよう審査・講評の様子をギャラリーに備え付けのテレビ画面から配信しました。

2) 第 67 回全国青年問題研究集会(コロナ禍における青少年活動報告会)

「青年問題研究集会」(青研集会)は、1950 年代に日青協が創造した、働く青年の生活課題の解決をめざす学習・実践活動を集約する集会です。1954(昭和 29)年に、勤労青年の教育のあり方、考え方として「勤労青年教育基本要綱」を策定した日青協は、青年の自主的学習活動として「共同学習」運動を全国に呼びかけました。共同学習運動は、仲間づくりと話し合い学習を重視し、活動や生活の身近な問題を語り合う中から共通の課題を見出し、共同の力によって課題解決の実践に取り組むという、青年の主体性、自主性による実践的学習運動です。このような共同学習運動の全国的集約と発展的展開をめざす場として、日青協は 1955(昭和 30)年から「全国青年問題研究集会」を開催しています。

第 67 回全国青年問題研究集会は、3 月 5 日にオンラインにて開催し、13 地域から 30 名が参加しました。今年度は子どもゆめ基金の助成を受け、「コロナ禍における青少年活動報告会」として、助成事業としての位置づけも持ち開催しました。

実践報告として、静岡県いなさ青年団は地域の地図作りの取り組みを、福島県連合青年会は文部科学省委託事業を利用した子ども事業に関する報告を、石川県青年団協議会は自分たちの活動の進め方やリーダー像を見直す「組織のすゝめ」という冊子の編纂及び活用に関する報告を行いました。そのあとにテーマ別に分かれて行われた分科会では新型コロナウイルスによって停滞してしまった活動をいかに再開させるのかなどについて議論が交わされ、コロナ禍ならではの新たな取り組みの報告など、今後の活動のヒントを得る機会となりました。

3) 全国地域青年「実践大賞」

「全国地域青年『実践大賞』」は、全国の優れた青年活動の取り組みに学びあい、それを顕彰するもので、全国の青年団や教育委員会などを通じて応募を呼びかけています。今年度は昨年度を上回る 27 実践が寄せられ、コロナ禍において何ができるかを青年団自らが考え、仲間と共に作り上げた成果が表れる形となりました。受賞した実践は下記のとおりです。

<実践大賞>

石川県白山市青年団協議会 「白山市子ども交流事業～さとやま乃めぐみ～」

■実践概要

市町村合併で2005年に誕生した白山市は、合併前の旧市町村の意識が強く市民同士の交流が少ないという課題がありました。白山市青年団協議会は旧市町村の壁を越えた交流の場を作るため「白山市子ども交流事業」を2020年から開催しています。第2回となる2021年は8月22日に開催しました。市内の魅力を十分に楽しめるよう、川魚釣り、なめこ収穫など体験型イベントを多数用意し、チラシを市内の全小学校に配布する等、広報に力を入れ200名以上の参加者を迎えました。

<教宣大賞>

静岡県いなさ青年団 「いなさマップ」

■実践概要

いなさ青年団は引佐協働センターの委託事業として、地域の情報マップ「いなさマップ」第二版を発行しました。2019年に製作した第一版には情報の誤りや地域の偏りがあったため、今回は地域の方々や観光協会、商工会、協働センターなどの意見を取り入れ、回覧板を回し地域を訪問するなど工夫しました。データは元看板屋だった団員が作成し、画像もふんだんに使い、表面(北部)と裏面(南部)を合わせると町の全体図になりポスターとして使用できるように工夫しました。地元住民から好評を得ていなさ青年団の存在を広く知っていただきました。

<田澤義鋪賞>

高知県土佐市青年団 「土佐市のPR動画『土佐CM』の製作・放映」

■実践概要

土佐市青年団は新型コロナの影響により地域団体や企業が苦境に立たされている状況を受け土佐市のPR動画「土佐CM」を製作しました。テロップを極力使用せず、小ネタを挟んだナレーションを導入し団員がナビゲーターを務めました。また地元の名産品を紹介するなど製作を通じ土佐市の企業や団体との連携を深めることができました。

<全国青年団OB会奨励賞>

滋賀県日野町連合青年会

広報活動 (機関紙「ひのせいねん」)

教宣活動 (ひのせいねんポロシャツ)

「地域とともにひのせいねん」～青年団65年の歩み展～

■実践概要

・機関紙「ひのせいねん」の発行

毎号全員で関わる事を大切に、温もりのある手書きで作成しています。見出しや文字・トーン・紙のサイズなども工夫しました。歴代OBの当時の想いや、激励の言葉を紹介する「Welcome OBさん」や、一つのトークテーマについて話し合う「〇〇トーク」などを連載しました。

・教宣活動「ひのせいねんポロシャツ」

新団員を迎えるに当たり、一体感を持つために団のポロシャツを作成しました。自分たちのスローガン「地域とともに」と、日野町の地図が描かれており、共通のユニフォームを着用することで団を背負い活動するという意識を共有しました。

・「地域とともにひのせいねん」～青年団65年の歩み展～

「青年団」という団体をその地域で暮らす方々にアピールするため、わたむきホール虹で2021年5月20日に企画展を開催。過去の活動写真を葉っぱに見立てて貼り付けた木のモニュメントや、歴史年表などを制作しました。またPRポスターの作成や企画展に向けた機関紙の号外を発行しました。

4) 第52回北方領土復帰促進婦人・青年交流集会の開催(北海道根室市)

日青協は1966(昭和41)年より北方領土返還要求運動に取り組み、1970(昭和45)年より婦人会の全国組織である全国地域婦人団体連絡協議会とともに、北方領土を望む納沙布岬での視察、北方領土問題の学習、元島民の返還への思いを聞くなどの内容で、北方領土復帰促進婦人・青年交流集

会を開催してきました。

今年度は2021年9月17日から19日にかけて根室市で開催予定だった表記集会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期とし、全面オンラインにて2022年2月5日～6日に実施しました。

当日は執行部を含め49名が参加。石垣雅敏根室市長や元島民の方々からビデオメッセージをいただいたほか、根室高校北方領土根室研究会や元島民2世・3世の方々から助言者として出席していただきました。

5) 国際交流事業

日青協は1956（昭和31）年より中華全国青年連合会（全青連）と交流を行っています。また、韓国青少年団体協議会（韓青協）との交流は、2012年に（社）中央青少年団体連絡協議会（中青連）の解散を受け、中青連事務局機能の役割を担う日青協が韓青協との交流事業を2015（平成27）年から承継し実施しています。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、昨年度に続き全ての国際交流事業を中止しました。

6) 子供たちの心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業

5月に文部科学省委託事業である「子供たちの心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業」に日青協をはじめ、宮城県団、福島県団、栃木県団、石川県団、高知県団、福岡県団が申請し、日青協（山梨県）、福島県団、石川県団、高知県団が採択を受け子どもたちに自然体験活動の場を提供し、カレー作り、キャンドル制作、星空鑑賞、ハイキングなどを行いました。実施状況は下表の通りです。

委託事業実施状況

実施地域	日付	参加者数
福島県	10月23日-24日	1名
山梨県	8月2日-3日	34名
山梨県	9月25日-26日	33名
石川県	10月23日-24日	31名
高知県	8月7日-8日	28名

2. 第69回全国民俗芸能大会（延期）

全国各地に伝えられる民俗芸能は、各地の風土と生活の中で生まれ、地域の人々によって育まれてきたものです。それらは人々の暮らしの推移を物語る貴重な民俗文化財でもあります。この大会は、このような各地の貴重な民俗芸能を舞台で公開し、民俗芸能の重要性を多くの人々に認識してもらおうと開催してきました。

歴史をひも解くと、日本で初めて地域の芸能を舞台で紹介したのが1925（大正14）年に初代日本青年館のこけら落としとして開催された「郷土舞踊と民謡の会」でした。以来、これまでに450近い数の芸能を紹介してきました。民俗芸能を継承している保存会等の団体にとっては全国民俗芸能大会への出場が継承意欲の向上につながり、これを契機に文化財としての指定にもつながるなど、大きな成果をあげています。また、早くからこうした芸能の記録保存に取り組んできたのも当大会でした。

今年度の民俗芸能大会は、新型コロナウイルスの急激な感染拡大を受け、出演3団体（チャッキラコ（神奈川県三浦市）／稚児舞楽（静岡県静岡市）／十津川の盆踊り（奈良県十津川村））のうち2団体から辞退、残る1団体についても出場に対する懸念が表明され、実質的に例年同様の開催ができなくなったため、8月25日に開催した今年度2回目の企画委員会において今大会の延期を判断しました。

今大会の企画委員会の構成は以下の通りです。

- ・ 山路 興造 民俗芸能学会理事
- ・ 星野 紘 東京文化財研究所名誉研究員
- ・ 齊籐 裕嗣 東京文化財研究所無形文化遺産部客員研究員

- ・宮田 繁幸 東京福祉大学国際交流センター特任講師
- ・俵木 悟 成城大学文芸学部教授
- ・神田 竜浩 文化庁参事官(芸術文化担当)付芸術文化調査官
- ・久保田 裕道 (独)国立文化財機構
東京文化財研究所無形民俗文化財研究室長
- ・伊藤 純 川村学園女子大学講師
- ・高久 舞 神奈川県教育委員会
- ・吉田 純子 文化庁伝統文化課文化財調査官

3. 月刊誌「社会教育」の発行

2021年度は日本青年館の事業全体が新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受ける中、月刊誌「社会教育」を例年同様に12回、毎月発行することができました。また、「新訂 入門・生涯学習政策」(岡本薫 著 A5判 109ページ 定価：1200円+税)を2022年2月28日に500部増刷しました。これは奈良大学の教科書(学芸員課程)として受注した200部の注文に対応するものです。

<2021年度「社会教育」特集テーマ>

- 4月号(898号) 社会教育によろこそ！社会教育士スタートです!!(普通号 825円)96頁
- 5月号(899号) ニューノーマル時代のまちづくり (普通号 825円)
- 6月号(900号) 創刊 900号 特別企画1：社会教育のニューノーマル
大人の学びは、社会は、どう変わる
創刊 900号 特別企画2：社会教育のエッセンスを抽出する
(増大号 1265円) 144頁
- 7月号(901号) 創刊 75周年 特別企画1：大人の学びはどう変わる(その2)
創刊 75周年 特別企画2：社会教育のエッセンスを抽出する(その2)
創刊 75周年 特別企画3：社会教育アワード受賞者による座談会
(普通号 825円)96頁
- 8月号(902号) 特集：テレワーク 創刊 75周年企画第2弾 (普通号 825円)96頁
- 9月号(903号) 特集：本でつなぐ人の縁・創刊 75周年企画第3弾
(普通号 825円)96頁
- 10月号(904号) 総力特集1：若者の未来の基盤づくり
総力特集2：現代的課題と社会教育 (増大号 1,265円)144頁
- 11月号(905号) 特集 読書の秋、図書館の秋 (普通号 825円)96頁
- 12月号(906号) 特集 成熟社会と多様性 (普通号 825円)96頁
- 1月号(907号) 特集 高齢社会の生涯学習・社会教育活動 (普通号 825円)96頁
- 2月号(908号) 特集 「ウィズコロナ」の芸術文化活動、地域の芸術文化活動支援
(普通号 825円)96頁
- 3月号(909号) 特集 2021年度の社会教育・生涯学習の総括と2022年度への展望
(普通号 825円)96頁

4. 青年問題研究所

地域の青年集団を再生し担い手を育成することを目的に、青年問題に関する調査・研究活動を行うほか、地域青年活動のプラットフォームの役割を日本青年館が果たすため、専門家等による統括会議で意見交換を行い、自治体を対象とした青年活動等に関する調査や地域青年活動の事例調査、それらを踏まえた研修事業を行ってきました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、調査研究活動を縮小し、首都圏近郊を対象とした事例調査に限定したほか、統括会議を含めた諸会議はオンラインを活用しながらの運営となりました。

1) 統括会議について

主に3年目となる全国まちづくり若者サミットに関する議論を進めるとともに各プログラム

の運営にもご協力をいただきました。また、全国の自治体で取り組まれるようになっている「若者会議」が広がるきっかけともなった秋田県の事例を、辻智子研究員と奥ちひろ研究員により12月に聞き取り調査を行いました。

<2021年度常任研究員>

井口啓太郎（文部科学省）

岡下 進一（元日本青年団協議会会長）

奥 ちひろ（秋田県南NPOセンター）

島田 茂（元YMCA同盟総主事）

辻 智子（北海道大学准教授）

矢口 悦子（東洋大学学長） ※敬称略 50音順

また、以下の日程で会議を開催しました。

日にち	名称	内容
2021/06/02	第1回統括会議	今年度の研究活動と事業の方向性について
2021/08/06	第2回統括会議	サミットのプログラム案、実践事例集について
2021/10/18	第3回統括会議	発表団体の状況、実行委員会の進捗について
2021/12/20	若者サミット全体会議	発表団体との顔合わせと打ち合わせ
2022/01/27	若者サミット直前会議	発表団体と進行確認
2022/02/10	第4回統括会議	若者サミットの総括

2) 全国まちづくり若者サミット2022

1月29日～30日にかけて、3回目となる表記事業を開催しました。当初、対面とオンラインのハイブリッドでの開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大により、開催一週間前に全面オンラインに変更しての開催となりました。

今年は、トークセッションの一部と交流会の企画・運営を実行委員会に委ね若者自身の参画を図ったほか、事例報告を行う12団体とファシリテーターを務める研究委員との会合を事前に2回行いました。当日はYouTube配信も行いました。

終了後のアンケートでは「満足」と「やや満足」をあわせると96%を占め、多くの参加者から感謝の声が相次ぎました。また、事業終了後、地域や団体の枠を越えて新たな取り組みが始まったり、新たな団体が設立されたりと、若者サミットを通じて地域活動の活性化につながっています。

①参加者数について

参加登録者数は29都道府県から100名。事業開催中の参加者数は以下の通りです。

- ・来場参加者 20名
- ・zoom参加者 1日目：最大52端末 2日目：最大42端末
- ・YouTube視聴者 1日目：最大39端末 2日目：最大29端末

②プログラムについて

◆1月29日(土)（会場：会議室イエロー）

時間	内容
12:30	開会式
13:00	アイスブレイク&オープニングセッション 内容 「画面で教えて！アンケート」 「モチベーショングラフ」 進行：奥ちひろ
14:45	トークセッション1 はじめの一步 みんなの一步 登壇団体 ・学生団体 YUZU(温泉地・湯河原町の活性化とシティプロモーション)

時間	内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・大正大学地域創生学部(公園のにぎわい創出にむけたパークトラック) ・鯖江市連合青年団(成人式やサンタ、地域行事への取り組み) 進行：井口啓太郎(文部科学省) 担当：四至本鈴香(日本青年団協議会)
16:30	トークセッション2 つなぎ、生み出す ～中間支援のあり方を考える～ 登壇団体 <ul style="list-style-type: none"> ・Crenaction(SNS や報道を通じた各団体のネットワーク) ・アクションポート横浜(NPO インターンによる学生と地域の橋渡し) ・高知県青年団協議会(県内の地域青年団や学生とのつながりづくり) 進行：澁谷 隆(一般財団法人日本青年館) 担当：氏家 秀徳(日本青年団協議会)
18:15	交流会「ランダム単語ガチャでまち案内」 内容：双六を三つ使ってランダムな言葉を組み合わせ、できた文章にそって自分のまちを案内しあう。 進行：若者サミット 2022 実行委員会
20:30	初日終了

◆1月30日(日) (会場：会議室イエロー)

時間	内容
9:00	トークセッション3 実行委員による企画課題解決ワークショップ 内容：活動で直面する課題を以下の三つのテーマに分類し、解決への知恵を共有。また、高校生だけをあつめたグループをつくり、意見交換。 分類：A「活動の継続性」B「仕事と活動」C「アンチとの付き合い方」 D「集まれ高校生」 進行：若者サミット 2022 実行委員会
10:45	トークセッション4 まちの魅力を再発見 登壇団体 <ul style="list-style-type: none"> ・ちくせい若者まちづくり会議(学生たちによる空き家対策などの取り組み) ・かわさき若者会議(川崎市内の若者による地域活動のプラットフォーム) ・ながさき若者会議(若者の居場所づくりや軽スポーツなど) 進行：辻 智子 担当：棚田 一論
13:15	トークセッション5 高校生が奮闘中 ～SDGs と地方創生～ 登壇団体 <ul style="list-style-type: none"> ・Teenlight(高校生によるボランティア団体。海外への物資支援など) ・加茂農林高校(あじさいを使った地域活性化) ・遊佐町少年議会(中高生による公選で選ばれた少年議員による政策づくり) 進行：島田 茂 担当：脇野 綾
15:00	クロージングセッション 内容：これまで出されてきた意見を振り返るとともに、「私にとってのまちづくりとは」を書きだし、相互に共有。 進行：辻 智子
15:55	閉会
16:00	終了

3) 実践事例集の作成

これまで3回にわたり開催してきた若者サミットで事例を報告してきた団体を中心に実践事例集を2023年度に発刊する予定とし、青年問題研究所の研究委員と企画を検討しています。

4) WEB マガジン『日本青年館まちづくり若者 lab』

9月1日よりSNS「note」を使用して開始したウェブマガジンには、現在、11本の記事・動画を公開し、総閲覧数は1,171(記事一覧は別記)となっています。執筆は主に地域活動に取り組む若者自身が他の団体取材しました。引き続き、若者サミットの事例発表団体を中心に記事を掲載していく予定です。QRコードは右記の通りです。



日時	タイトル	取材対象
2021.08	発刊にあたって	
2021.08	若者のパワーが集まる秘密基地	多摩市若者会議
2021.09	3代目日本青年館プロモーションビデオ	
2021.10	みんなのたからばこを創りたい	一般社団法人NELD
2021.11	地域の若者をつなげるプラットフォーム	かわさき若者会議
2021.11	10代が社会を照らす	Teena Light
2022.01	PARK CAFE で公園ににぎわいを	大正大学地域創生学部
2022.01	地域とつながりながら活動する	高知県青年団協議会
2022.02	花咲かせ地域彩る高校生 前編	美濃加茂アジサイ倶楽部
2022.03	花咲かせ地域彩る高校生 後編	//
2022.03	若者による多彩な「まちづくり」	若者サミット2022
2022.03	けんけんの東欧見聞録 ～ウクライナ編～	かわさき若者会議中野氏執筆
2022.03	けんけんの東欧見聞録 ～ベラルーシ編～	//

5. 図書・資料センター

日本で唯一、戦前・戦後期の地域青年団活動資料を多数所蔵する当館の図書・資料センターは、財団設立4年後の1925(大正14)年に建物の竣工とともに付設されました。当時は、数少ない一般公開の図書館として市民にも広く活用されていました。近年は、資料センターとしてとりわけ社会教育関係者、研究者、学生、自治体史編さん関係者、メディア関係者等多くの方々に利用され、貴重な資料の保存と資料センターとしての役割を担ってきました。今年度は、以下の作業を進めてきました。

1) 資料室の閲覧、問い合わせ

資料室の一般閲覧については、新型コロナウイルス感染拡大のため、メールなどの問い合わせに対応すると共に、ケースに応じて来館での閲覧に対応してきました。2021年4月1日～2022年3月31日までの問い合わせ、閲覧状況は以下のとおりです。

<一般>	来館…2件	メールでの問い合わせ…2件	
<大学生・院生>	来館…2件	メールでの問い合わせ…1件	
<研究者>	来館…6件	メールでの問い合わせ…2件	
<自治体町史編纂>	来館…1件		
<マスコミ>	来館…1件	メールでの問い合わせ…1件	総計 18件

なお、研究者の来館者のうち、北海道大学の辻智子先生は、全国青研の成り立ちや青研集会初期の研究を進めており、10月に2週間の長期滞在で資料室をご利用いただきました。同時に資料室の整理についても具体的アドバイスと整理作業のご協力をいただきました。

2) 所蔵フィルム・写真の利用状況

所蔵フィルム・写真の利用は以下のとおりです。

- ・日本青年館所蔵の戦前フィルム「鋤の光」の一部が、2021年6月4日NHK総合で再放送の、「きれいをあきらめないで～美容家 佐伯チズ」で使用されました。
- ・日本青年館所蔵の戦前のフィルムの中から、「我等の生活の中に」（1940年頃制作）の一部分を、以下のとおり、NHKの番組にて利用する予定です。
- ・「映像の世紀」シリーズ第21集「太平洋戦争 熱狂から絶望への1346日」
2021年12月半ば、BSプレミアムにて放送(予定)
- ・連続テレビ小説 「カムカムエヴリバディ」関連番組
「カムカムエヴリバディ 裏ヒストリー」（仮）
本放送：2021年12月3日(金)20:00～20:45 NHK総合(関西ローカル放送)
再放送：2021年12月29日(水)9:00～9:45 NHK総合(全国放送)
- ・2021年12月29日放送、新潟放送「俺たち、ムロヤ青年会」で、明治神宮造営奉仕の写真、「グラフ日本青年館と青年団」の写真数点を提供。
- ・2021年12月3日放送、NHK高知放送局「ニュース」の時間帯に、満州からの引揚げに関するドキュメンタリーで戦前フィルム「鋤の光」の一部を利用。
- ・2022年3月7日、8日、再放送のNHK「プレミアムカフェ」の「きれいをあきらめないで～美容家 佐伯チズ」で戦前フィルム「鋤の光」の一部を利用。
- ・2022年3月18日放送予定、NHK「キタカン+“気づき”の旅～北関東の悲劇の地を巡る」で戦前フィルム「興亜青年勤労報国隊」の一部を利用。

3) 青研レポート集の保存と活用

PDF化した第1回～66回までの青研レポート集のタイトル・県名・名前・年齢・職業などのデータ入力の作業が北海道大学の辻智子先生の研究室において完了しました。これにより、テキストデータと併せて、全てのレポートをデータで見ることができるようになりデータ分析や一定の検索なども可能になりました。

また、辻先生は青研集会の成り立ちや全国青研レポート集についての研究を進めており、この研究に対する科研費申請(2022年度から3年間)が採択されました。青研レポート集を活用し、同じ地域の先輩たちのレポートを現在の若者たちに読んでもらい、レポートへの感想を手がかりに青年教育の展望を地域の実情に即して考えるという実践的な計画となっています。

4) 『明治神宮代参記』の作成

大正9年11月23日の全国青年団の代表者700名による明治神宮への参拝(代参者大会)に、愛媛県東宇和郡青年団(当時)の代表として参加した篠藤市雄氏の道中記が、遺族により発見され、日本青年館に寄贈されました。

当時の様子を参加者の立場から記録したものは極めて珍しく、昨年夏には、明治神宮国際神道文化研究所の今泉宜子氏を中心に翻刻され、明治神宮国際神道文化研究所紀要『神園』に掲載されたほか、道中記と日本青年館山本信也理事の寄稿文などと合わせ手軽に読めるよう、株式会社ニッセイのご協力を得ながら抜き刷りを作成し、大分で開催された全国青年団OB会参加者に配布しました。

6. 文化事業

1) ウィーン・ピアノデュオ・クトロヴァッツ (PDK) の交流公演 (中止)

今年度のPDK公演は、新型コロナウイルス感染拡大のため、地元実行委員会での準備が進められないこと、ホールを使用したイベント実施の見通しが不透明なこと、併せて海外アーティストの日本入国も見通しが立たないことから昨年度に続き公演中止を決定しました。

7. 高校オーケストラ活動支援事業

日本青年館で第1回目のオーケストラフェスタが開催されたのは1995年1月のことです。日本青年館を活用してのオーケストラ活動を通じた青少年育成の取り組みも26年目を迎えました。「高校の吹奏楽は全国的な発表・交流の場があるが、オーケストラの場合はそうした場がない。ぜひそ

のような場を」という高校の先生方の声を受けてのスタートでした。以来、ティンパニやコントラバスなどの大型楽器の配備・充実に努めるとともに、1998年には全日本高等学校オーケストラ連盟を組織し、全国的なネットワークづくりに取り組んできました。

1) 第 21 回全国高等学校オーケストラ・サマースクール (中止・延期)

全日本高等学校オーケストラ連盟主催、日本青年館後援により 8 月 9 日(月)～12 日(木)の日程で開催を予定していましたが、開催直前に新型コロナウイルス感染者の急激な増加を受け、個人指導に伴う生徒と講師の接触がプログラムの主体となる本事業については、感染拡大防止の観点から本年度の開催を中止しました。参加者は全国 17 校 60 名を予定していました。

2) 第 4 回全国高等学校サマーオーケストラ

(8 月 16 日(月)～19 日(木) 山中湖畔荘ホテル清溪)

音楽をつくりあげるための実践的な指導を通じて、より高い技術と音楽性を身に着けることを目的に、全日本高等学校オーケストラ連盟主催、日本青年館後援により開催しました。サマースクールとは異なり、個人指導もなく指揮者による合奏指導のみのため、合奏時の感染対策を十分尽くすことで感染防止は可能と判断し開催しました。

参加者は全国 22 校 80 名と、コロナ禍でありながら大変多くの方に参加していただきました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から最終日の特別演奏会は実施せず、無観客で通し演奏の収録のみとしました。

3) 第 28 回全国高等学校選抜オーケストラフェスタ

(日本青年館ホール収録期間：2021 年 12 月 25 日(土)～28 日(火))

(YouTube 動画公開期間：2022 年 2 月 1 日(火)～3 月 14 日(月))

日本最大規模の高校オーケストラの祭典『第 28 回全国高等学校選抜オーケストラフェスタ(オケフェス)』を今年も開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、昨年度に引き続き日本青年館ホールにおける首都圏の学校の演奏動画収録と、全国各地で行われた各参加校の収録動画を YouTube の限定配信により鑑賞し、お互いに励ましのメッセージを送り合うオンラインとリアルを併用したハイブリッドな開催形態としました。

今大会の参加者は、全国 76 校・73 演奏団体より 3,634 人となりました。日本青年館ホールでの演奏動画収録は 12 月 25 日～28 日に行い首都圏の学校 28 校が参加しました。また、全国からオーディションをくぐり抜けたメンバーによって編成される選抜オーケストラ 2 組が 12 月 26 日、28 日に一般の聴衆・保護者立ち会いのもと公開収録を行いました。その後全国 48 校から寄せられた演奏動画と併せ 2 月 1 日～3 月 14 日の期間で YouTube にて配信しました。

期間中に生徒間でやりとりされたメッセージカードは 4,000 通を越えました。さらに今回は承諾の得られた学校の演奏動画のみ YouTube 上での一般公開も行い、期間中の視聴者数は約 15,900 名、視聴回数は約 87,700 回、視聴時間は約 5,040 時間を越え大きな盛り上がりを見せました。

選抜生徒による演奏曲目と指揮者は下記の通りです。

<選抜オーケストラ>

演奏曲目 J.ブラームス/交響曲第 1 番 ハ短調 Op. 68 第 4 楽章

指揮者 河地 良智(洗足音楽大学名誉教授・前同大学副学長)

オンライン開催となった昨年から初参加の学校も相次いで出てきており、日程や金銭面等の事情でこれまでオケフェスに参加できなかった学校が、演奏を全国のオーケストラ活動に励む高校生と共有できる機会が拡大されたことは、コロナ禍だからこそできる開催形態を模索し継続することで生まれたオケフェスの「新しい価値」となりました。

なお、今年度も来賓挨拶はありませんでしたが、文部科学省藤原章夫総合教育政策局長の激励のメッセージをプログラムに掲載しています。

4) 弦楽オーケストラ・ワークショップ

(3 月 29 日(火)～30 日(水) 日本青年館)

新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。「第 21 回全国高等学校オーケストラ・

サマースクール」の代替企画として標記事業を3月29日と30日に実施しました。今回は弦楽器(ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス)のみのワークショップとし合奏を通じた学びと交流を目的にしています。

全国26校より62名が参加。募集開始からまもなくほとんどのパートが定員締め切りとなるなど、コロナ禍で様々な演奏と交流の機会が失われている中でワークショップの開催に生徒からも大きな期待が寄せられました。穏やかな雰囲気の中で練習は進み、成果発表では素晴らしい演奏が披露されました。課題曲と指導者は以下の通りです。

課題曲 G.ホルスト/セントポール組曲 Op.29-2 他

指導者 馬込 勇(元リッツ・ブルックナー管弦楽団首席ファゴット奏者、平成音楽大学教授、国立音楽大学講師、サマースクール校長)

ヴァイオリン：伊藤 太郎 チェロ：為国 健太

8. 第26回清溪セミナー（10月27日～28日 日本青年館）

地方自治体の若手政治家の研修・交流の場として実施してきた本セミナーは、青年団出身の若手政治家の手によって1997年2月に第1回目が開催されました。大きな特色の一つは、全国から選出された実行委員による自主的な運営であること。二つ目は、参加者の声を活かし時宜を得たテーマを設定し、本セミナーの趣旨をご理解いただく専門の講師をお招きしていること。三つ目は超党派であることが挙げられます。

26回目を迎える清溪セミナーは新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し、対面参加に加えてオンライン参加(ライブ視聴とオンデマンド視聴)を設定して10月27日～28日に開催しました。議会による自治体改革や環境政策、起業支援等をテーマにしたプログラムは下記の通りです。

なお、当初、講義Ⅳで講師を務める予定の石破茂氏が、衆院選が10月31日に行われることになったことにより講師を辞退されたことから、福岡政行氏の講義を中心とした鼎談企画に変更しています。参加者総数は82名(対面参加33名、オンライン参加49名)となりました。

◆10月27日(水)

講義Ⅰ 「自治体議会の政策制御」

講師：土山希美枝 氏(法政大学法学部教授)

講義Ⅱ パネルディスカッション

「議会は『わがまちの政策をよりよくする』ことができるか」

コーディネーター：土山希美枝 氏(法政大学法学部教授)

パネリスト：岩崎 弘宣 氏(取手市議会事務局次長)

桂 睦子 氏(茨木市議会議員)

谷畑 英吾 氏(前湖南市長)

講義Ⅲ 「問われる自治体と国との関係」

講師：谷畑 英吾 氏(前湖南市長)

◆10月28日(木)

講義Ⅳ 講義「コロナ禍から見えてきた国政と地方自治の新たな役割」

講師：福岡 政行 氏(白鷗大学名誉教授)

鼎談 福岡 政行 氏(白鷗大学名誉教授)

小林 美希 氏(ジャーナリスト)

島田 光喜 氏(早稲田大学鵬志会幹事長)

講義Ⅴ 「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。」

講師：出雲 充 氏(株ユーグレナ代表取締役社長)

講義Ⅵ 「持続可能な地域社会と地方自治」

講師：谷口 信雄 氏(一般社団法人地域政策デザインオフィス理事)

9. 田澤義鋪記念会

田澤義鋪（1885（明治18）年～1944（昭和19）年 日本青年館第5代理事長）は、25歳で静岡県安倍郡長として青年団にかかわります。その後内務省明治神宮造営局総務課長を務め、明治神宮の造営にあたり青年団の労力奉仕を建議。明正選挙運動にも多大な貢献をしました。

こうした田澤義鋪の残した民主的平和的な社会教育上の精神と業績を伝え、その実現に努めることを目的に、毎年田澤義鋪記念会を開催しています。

1) 田澤義鋪記念会総会

毎年11月1日に明治神宮で開催される秋の大祭に合わせ、田澤義鋪記念会総会を開催していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大と、明治神宮の秋の大祭が参列なしで実施されることなどから総会を中止することとし、9月15日付けで会員の皆様にその旨をお知らせしました。総会で行っていた日本青年館の館務報告および田澤会の会計報告については、11月5日付の日青館発第24号で文書により報告しています。

なお、今年度の田澤会会費納入は、個人75名13団体となっています。

2) 田澤義鋪賞

今年度も日青協顕彰制度「全国地域青年実践大賞」の特別賞として、高知県土佐市青年団に田澤義鋪賞を授与しました。新型コロナの影響で苦境に立たされている地元の団体や企業のために土佐市のPR動画「土佐CM」を製作し地域を巻き込んだ取り組みが審査員に評価されました。

3) 第187号田澤通信の発行

3月24日付で第187号田澤通信を発行しました。（一財）鹿島市民立生涯学習・文化振興財団による著作『田澤義鋪～今につながる政治教育の「源流」～』刊行や、『明治神宮代参記』の紹介、佐賀県の田澤記念館の状況を報告しています。

10. 国際交流活動

1) 中日青年交流センターとの交流

中日青年交流センターは、1984年、当時の中曽根康弘内閣総理大臣と中国の胡耀邦総書記との共同発意により、日中友好21世紀委員会が、その建設をそれぞれの政府に提唱し、日本政府の無償資金協力と中国政府の資金により1991年共同プロジェクトで建設された施設です。以来、日本青年館は施設の運営等について支援・交流するため、中日青年交流センターから研修生を受け入れるなど施設間の交流を続けてきました。

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により両国間の往来が出来ないため、昨年度に続き中国代表団の受け入れ及び日本からの代表団派遣の双方とも中止としました。

11. 日本青年館財団設立100周年記念事業の準備について

オリンピック・パラリンピック東京大会の延期や新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2021年から1年延期した「財団設立100周年記念事業」を、2022年11月2日～3日で開催するため準備を進めてきました。2日に行う予定の記念式典等の記念行事に、来賓として内閣総理大臣や文部科学大臣の出席及び祝辞をいただくことを念頭に、文部科学省青少年教育推進室を窓口にご相談を始めています。あわせて天皇皇后両陛下の式典へのご臨席について、3月中旬に宮内庁総務課を訪問し具体的な検討を依頼しました。

また、上記式典等に参加していただいた青年団OB・OGを中心に、翌3日、関連事業として全国青年団OB会および田澤義鋪記念会の総会を合同で開催したのち、記念講演および明治神宮への参拝や見学を行い、同日午後には記念文化事業としてウィーンピアノデュオ・クトロヴァツコンサートを（株）ニッセイのご協力により開催する予定となっています。

この記念事業に合わせて作成する予定の財団設立100周年記念誌については、平成3年に発行した「財団法人日本青年館七十年史」以降の30年間を中心に、公益事業や本館・分館での収益事業、3代目日本青年館の建設等を中心とした内容で編集を進めています。

12. 関連事業

1) 全国青年会館協議会活動

各県における青年団運動の拠点としての役割を担う青年会館の建設は、昭和25年2月の佐賀県青年会館がスタートでした。その後、各地に青年会館の建設運動が起こり、現在22の都道県に青年会館があります。それらの青年会館同士の連絡協調と青年団体の振興、地域社会の発展を図ることを目的として、全国青年会館協議会が組織され活動しています。

主な活動内容は、財団運営に関わる研修、青年団をはじめとする青少年団体への支援、施設運営のノウハウの相互交換など多岐にわたっています。今年度は以下の活動を展開してきました。

(1) 総会（6月21日 書面決議により実施）

本年度の総会については、昨年につき書面決議とし、6月21日付にて22会館すべての会館から賛成の決議をいただきました。

(2) 全国青年会館協議会理事長会の開催（12月9日～10日 日本青年館）

12月9日～10日に日本青年館にて開催しました。会議では、コロナで会館運営の継続そのものが厳しい現状が各会館より報告されました。また翌日には、銭谷理事が館長を務める東京国立博物館を視察しました。

(3) 加盟青年会館一覧（2022年3月31日現在）

一般財団法人北海道青年会館	〒060-0806	札幌市北区北六条西6-3-1	TEL011-726-4235
一般財団法人岩手県青少年会館	〒020-0196	盛岡市みたけ3-38-20	TEL019-641-4550
一般財団法人宮城県青年会館	〒983-0836	仙台市宮城野区幸町4-5-1	TEL022-293-4631
一般財団法人秋田県青年会館	〒011-0905	秋田市寺内神屋敷3-1	TEL018-880-2303
福島県青年会館	〒960-8103	福島市舟場町3-26	TEL024-523-1484
茨城県立青少年会館 (公益社団法人茨城県青少年育成協会)	〒310-0034	水戸市緑町1-1-18	TEL029-226-1388
一般財団法人栃木県青年会館	〒320-0066	宇都宮市駒生1-1-6	TEL028-624-1417
群馬県青少年会館 (公益財団法人群馬県青少年育成事業団)	〒371-0044	前橋市荒牧町2-12	TEL027-234-1131
一般財団法人福井県青年会館	〒910-0005	福井市大手3-11-17	TEL0776-22-5625
一般財団法人静岡県青少年会館	〒420-0068	静岡市葵区田町1-70-1	TEL054-255-2566
一般財団法人愛知県青年会館	〒460-0008	名古屋市中区栄1-18-8	TEL052-221-6001
一般財団法人滋賀県青年会館	〒520-0851	大津市唐橋町23-3	TEL077-537-2753
一般財団法人島根青年会館	〒690-0033	松江市大庭町1751-13	TEL0852-21-2818
一般財団法人岡山県青年会館	〒700-0081	岡山市北区津島東1-4-1	TEL086-254-7722
一般財団法人防長青年館	〒753-0064	山口市神田町1-80	TEL083-923-6088
一般社団法人香川県青年団体育成支援協議会	〒769-0102	高松市国分寺町国分1009番地	TEL087-874-0713
特定非営利活動法人高知県青年会館	〒781-2122	吾川郡いの町天王北1-14	TEL088-891-5300
一般財団法人佐賀県青年会館	〒849-0923	佐賀市日の出1-21-50	TEL0952-31-2328
一般財団法人熊本県青年会館	〒862-0950	熊本市水前寺3-17-15	TEL096-381-6221
一般財団法人鹿児島県青年会館	〒890-0005	鹿児島市下伊敷1-52-3	TEL099-218-1225
一般財団法人沖縄県青年会館	〒900-0033	那覇市久米2-15-23	TEL098-864-1780
(事務局)一般財団法人日本青年館	〒160-0013	新宿区霞ヶ丘町4-1	TEL03-6452-9015

2) 全国青年団OB会

昨年度より延期された全国青年団OB会第39回総会大分大会は、2020年10月から1年延期し当初2021年10月17～18日に大分県日出町「ホテル&リゾート別府湾」で開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を鑑み再度延期し、2022年1月16日～17日にかけての開催となりました。

参加者は大分県内から57名、県外から62名の総勢119名となりました。コロナ第6波の急速な拡大により直前になりキャンセル等相次いだものの、現地実行委員会の迅速な対応により感染者や事故・トラブル等もなく開催できました。コロナ禍にもかかわらず広瀬勝貞知事をはじめ県議会議長や国会議員も駆けつけ開会式が行われたほか、副知事や地元日出町町長から祝辞をいただいた交流会、2日目の視察では日本青年館三代目理事長井上準之助生家にある「清溪文庫」などの見学も行われました。

2022年度の全国青年団OB会第40回総会は日本青年館の財団設立100周年記念事業と併せ、11月2日～3日に東京・日本青年館で開催することが決定しています。なお、2023年度は石川大会を予定しています。今年度も日青協顕彰制度「全国地域青年実践大賞」の特別賞として、日野町連合青年会の機関誌や65周年記念事業の総合的な取り組みに全国青年団OB会賞を授与しました。

3) 大九報光会

明治神宮造営に際し、全国の青年団が労力奉仕にあたり、そのことがきっかけとなって日本青年館は誕生しました。その造営の労力奉仕に参加された方々が1950年（昭和25年）11月1日、明治神宮御鎮座30年祭に参加された折、そのことを記念して大九報光会を結成しました。「大九」とは、明治神宮御鎮座の年、大正九年に由来し、さらに耐乏生活に耐え、光明と希望に生きる耐久生活にもかけて命名されたものです。以来、ほぼ毎年11月1日に労力奉仕に参加された方の二世、三世の方々等により明治神宮において総会が開催されています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止としました。

4) 清溪フォーラム行政懇談会

青年団出身の首長で組織している清溪フォーラムの行政懇談会を毎年開催していましたが今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止としました。会員は以下の通りです。（敬称略）

会	長	伊藤 康志	（宮城県大崎市長）
幹	事	若生 裕俊	（宮城県富谷市長）
		大野 久芳	（富山県黒部市長）
監	事	保坂 武	（山梨県甲斐市長）

5) 社会教育士実習生の受け入れ

2020年度から大学で社会教育主事養成課程を履修すると「社会教育士」の称号が付与されることになり、その過程において社会教育の現場での実習が必須となりました。これを受けて、東洋大学文学部教育学科の実習先の一つとして当財団が協力することとし、今年度1名の学生を受け入れました。

また、日青協でも法政大学からの要請で、実習生6名を受け入れ、文部科学省委託事業「子供の自然体験推進事業」及び全国青年大会の準備と実施に携わりました。

6) 「東日本大震災から10年『復興の軌跡とこの先の10年』」

城南信用金庫を中心に11月10日に実施した「東日本大震災から10年『復興の軌跡とこの先の10年』」に会場の提供や運営への協力をすることとし、日青協、株式会社ニッセイとともに主催に名を連ねました。第1部では、西銘恒三郎復興大臣（屋敷利紀審議官代読）、内堀雅雄福島県知事らの来賓あいさつの後、双葉町、飯館村、矢祭町、いわき市、福島市（ビデオメッセージ）によるリレーメッセージが行われました。第2部では作家の柳田邦夫氏の講演に続き、「震災復興に取り組んだ若者たちの10年」と題し、日青協伊藤加奈子常任理事（宮城県）が青年団をはじめとする地域の若者が震災復興にいかに関与したのかについて25分間の報告を行っています。

13. 後援・協力事業

今年度、日本青年館が依頼を受けて後援・協力をした事業は下記のとおりです。

- 1) 第47回太陽美術展 11月17日～11月24日
（主催：太陽美術協会）
※後援名義使用、日本青年館賞提供